中春別小学校
学 校 便 り

窓

第 5 号
発行責任者 校長 若 松 正
令和4年7月22日 発行

たくさんの勇気

人に話しかけるのが億劫だったり、走るのが苦手だったり、繰り下がりの計算が苦手だったり…嫌いなことや苦手だと思うことが心に生まれると、うまく笑顔がつくれなくなったり、時に自分が嫌いになったりすることもあります。反対に、歌うのが好きだったり、計算が早かったり、逆上がりが上手にできたり…。好きなことや得意だと思えることがあると、そのことを支えにして子どもたちは**“ちょっぴり”**自信を持つことができます。その**“ちょっぴり”**は、１人で思っているだけでは“しおれて”しまうこともあるけれど、「頑張ったね」「よくできたね」「その歌声いいな」などの誰かの声掛けで**“ふくらんだり”**もするのだと思います。

コミュニティースクールでは、『中春っ子　未来を拓こう　みんなの笑顔』を育てたい子ども像としてスローガンに掲げていますが、たぶん笑顔って自分で意識して作ったりするものじゃなくて、知らず知らずのうちにこぼれたり、浮かべていたりしているものだなって思います。ですので、このスローガンを達成していくために、子どもたちが笑顔で過ごせるような環境を作ることが大切だと考えます。それが我々大人の役目であり、学校が果たす役割も大きいと感じています。

さて、この一学期。子どもたちには、たくさん、挑戦する場面を見せてもらいました。はじめての小学校、はじめてのお兄さん・お姉さん、はじめてのなかまとの宿泊、はじめてのよさこい、はじめての新しい教科、はじめての最高学年。大きな節目ばかりあげてみましたが、８８人、一人ひとりに幾つもの挑戦があったことと思います。難しい問題を何度もやり直したり、大勢の前で挨拶したり、苦手だった徒競走に向き合ってみたり、参観日に一席ぶってみたり、注射を我慢したり、みんなの前でモノマネをしてみたり…。もしかしたら他の人にとっては当たり前にできることかも知れないことも、自分にとってはかけがえのない大きな挑戦だったりします。そこに大きな勇気が必要なのだろうと思います。だからこそ、どんな挑戦であっても大事にしていきたいな、と感じています。
大人（学校）の役目は一歩踏み出した子どもたちが**“えっへん”**って感じられるくらい褒めてあげることだったり、新たな挑戦に一歩踏み出すことができるよう勇気づけてあげることだったりなんだろうなって思っています。

学校がそういう役割を果たせているかを振り返るために、保護者の皆様のお声は欠かせないものと考えています。授業参観後の懇談会でお話頂いたご意見や学校評価へのご協力は教育活動を振り返り、改善を考えるうえでとても大切な指針となります。中でも、評価の数値が低い項目があったり、厳しいご指摘を頂いたりすると、学校に対して期待していただいてることが伝わってきて本当に有難いことと感じます。今後の教育活動を通して、丁寧にお答えしていかなければならないと強く感じます。もちろん、学校に対する好評価や子どもたちが楽しく学校に通っていることを伝えて頂いたりすることもとっても励みになります。今後とも、学校評価や懇談会などの機会はもちろん、お気づきのところがございましたら、いつでも学校までお知らせいただければ幸いです。
皆様のおかげをもちまして、無事に一学期の終業式を迎えられることに深く感謝申し上げます。

校舎を囲むようにそびえる樹々のいろんな緑とそれを支える空の薄青や雲の白。鉢を持ち帰ったあとの空っぽになったビニールハウス。いよいよ夏本番。どうぞお体にご留意いただければと存じます。